

学生団体KUMC・社会安全学部生による防災・安全教育

学生団体KUMCと社会安全学部生が出張特別授業や地域の防災行事への参加、高槻ミュージアム施設案内などを通じて、高槻市の小学校を中心に防災・安全教育を行っています。千里山キャンパスにもKUMC部員が増加し、吹田市等でも活動しています。



2016年5月15日 立命館大学大阪いばらきキャンパスにおけるいばらき防災運動会でのブース出演

活動の概要

目的	地域の学校の防災・安全教育ならびに防災イベントへの協力・参画による地域社会の防災・減災への貢献／社会安全学部を中心とする各学部における学習成果の実践
連携メンバー	高槻市教育委員会／高槻市立磐手小学校／高槻市立奥坂小学校／高槻市立五百住小学校 関西大学学生団体KUMC（現在は社会安全学部だけでなく千里山キャンパスの各学部でも部員が増加）／ 関西大学社会安全学部「経営学概論」「リスクマネジメント論」「危機管理とリーダーシップ」 「基礎演習（2016年度1クラス）」受講者／関西大学社会安全学部 亀井克之ゼミ
活動地域	高槻市立小学校（磐手・奥坂・五百住小学校など）／関西大学高槻ミュージアムキャンパス その他
活動期間	2013年4月～（継続中）
費用	ボランティア

連携の経緯

日ごろから安全・安心を学ぶ社会安全学部の学生が、それぞれの学習成果を地域社会に発信することを目指してKUMCを設立。同団体は高槻市の小学校に防災出張授業の受け入れを働きかけ、2013年以降、市内の小学校で実績を重ねてきた。2014年には市内の3小学校で開催された同学部外国人招聘研究者レオ・ポール・ダナ教授による講演「ニュージーランド地震の被災体験」に協力するなど、学部の特色を活かした活動の幅を広げている。また、同市からの要請に基づき、KUMC以外の社会安全学部生と協力して小学生対象のキャンパス見学、防災教育を実施した他、地域の防災イベントで防災教育ブースを展示するなど地域との繋がりも強まっている。

解決すべき課題

- 具体的な防災・安全教育の模索（独自性・双方向性・地域性の実現）
- 防災・安全教育の教材作成・準備



基礎演習受講生によるキャンパス防災施設案内



KUMCによる高槻市立奥坂小学校での防災授業

大学の役割

- KUMC部員や社会安全学部生有志が小学校の防災・安全教育に協力している。以下はその一例である。
- ①小学校への出張防災授業
防災カードゲーム「クロスロード」を用いて、災害時に迫られるさまざまな判断の疑似体験を実施。新聞紙を使ったスリッパやコップ作りの指導なども行った。
 - ②小学生が関西大学に訪問した際の防災学習支援
関西大学高槻ミュージアムキャンパス内の安全ミュージアムや防災倉庫の案内を行った。模擬訓練では簡易バケツリレーや伝言ゲームなどを通じて被災時の相互協力の必要性を学習した。座学では亀井が講義を行い、災害時に選択を迫られた際、どう決断すべきかについて児童と学生が意見交換を行った。
 - ③小学校の放課後教室における防災・安全教育
KUMCが小学校の放課後教室に向き、クイズによる学習や新聞紙を使ったコップ作りの指導などを行った。
 - ④キャンパス祭や地域の防災イベントへの参加・協力
KUMCがキャンパス祭や地域の防災イベントを通じて、市民への防災・安全啓発活動を担当した。

成果

- (1) 2014年4月、磐手小学校・奥坂小学校・第八中学校の3校で「ニュージーランド地震の被災体験」の講演を実施した際にKUMCが協力。
- (2) 2016年5月15日、いばらき防災運動会に出展し、新聞紙でのスリッパやコップ作り、ビニール袋でのカッパ作りを指導。
- (3) 2016年6月5日、大冠浄水所での水道祭で「消火器ストラックアウト」や「おぼえてイレブン」（非常持ち出し袋に入れるべき物品の紹介）などを実施。
- (4) 2016年6月13日・11月8日、高槻ミュージアムキャンパスにて奥坂小学校児童による訪問学習を実施。防災施設や講義を見学し、社会安全学部生との合同演習を行った。
- (5) 2016年6月19日、高槻ミュージアムキャンパス祭で「輪投げ&防災クイズ」「防災すごろく」「防災かるた」「立体ハザードマップ」等を実施。
- (6) 2016年8月31日、高槻市立五百住（よすみ）小学校放課後教室などでの防災・安全教育（2016年度実績10回以上）
- (7) 2016年1月24日高槻シティハーフマラソン、5月3・4日の高槻ジャズストリート、8月6日・7日の高槻まつりに参画

現場の声

・清水智恵（社会安全学部3年生 KUMC代表）

私たちの防災授業のよいところは、笑顔で声が大きく堂々としている、テーマごとに人を代え関心を引く、数字を使って被害の大きさを実感させる、クイズで授業内容の振り返りができることなどです。改善すべき点は、難しい言葉を分かりやすく説明する、クイズは3択にするなどさらに工夫する、子どもに合わせた防災対策を例として用いるなどが挙げられます。（2016年8月5日の茨木市・安威川ダム建設事務所での公開模擬授業実施後の反省会から）

今後の展望

- (1) 上記活動の継続および教材開発などの改善

研究者の紹介



社会安全学部 教授
亀井 克之
(かめい かつゆき)

専門は経営学。リスクマネジメント論。企業のリスクマネジメントのほか、さまざまな事象にリスクマネジメントのフレームワークを適用して研究している。KUMC顧問。

学生団体の紹介

・学生団体KUMC
社会安全学部生が2010年4月に結成し、2013年7月に関西大学準登録団体となった。「防災教育班」「防災製品の共同開発班」「ハザードマップ班」「イベント班」に分かれて社会貢献活動を行う。部員数は100名を超え、「大学で学んだ『防災・減災』の知識を地域社会へ発信する」が団体理念。千里山キャンパスの学部の部員も増加。